

インターバンクの声（2016年9月26日）

日米の金融政策会合を終えた週末、海外市場の円相場は大きな波乱もなく101円ちょうど前後で取引を終えた。日銀は「量から金利への政策転換」を行ったが、政策の枠組みの変更点について、人から聞かれれば理解出来ていると答えるが、正直なところマイナス金利の深堀りを避けたとの思いくらいしかない。一方の米連邦公開市場委員会(FOMC)も利上げは実施せず、長期の金利見通しが引き下げられたため、先行きの円相場については円高に向かうとの見方が優勢のようだ。それでもドルは何とか22日のFOMC後に付けた100円台前半で下げ止まっており、今年100円より円高で取引された時間が短いせいなのか、或いはじっくり10月7日に発表される米雇用統計を待ちたいのか、市場も簡単には円買いに向かわないのかもしれない。その雇用統計が弱い内容になれば、残されている年内の利上げの可能性も消えてしまうかも知れないが、市場がこの2週間のうちに100円割れを攻めに行くかどうかは微妙なところだ。ディーラー勢にとっては動きのない相場は困りものだが、静かな一週間となるかもしれない。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。